

【振替開催決定】

大規模災害時の“水道復旧の長期化”課題に挑む

「PUALIF 分散型防災拠点 フィールド実証プログラム」9 月 17 日(木)に開催。
災害時浄水ユニットを用いた、住民参加型の給水体験を金沢市協力のもと実施。

兼六温泉での振替開催日も 9 月 30 日（水）に決定したほか、新たに PUALIF 公式 LP を公開

総合水処理エンジニアリング企業のオルガノ株式会社（本社：東京都江東区、代表取締役社長：山田正幸、以下オルガノ）と株式会社 quantum（本社：東京都港区、代表取締役社長兼 CEO：川下和彦、以下 quantum）は、去る 8 月 27 日に石川県および周辺地域を襲った豪雨の影響により実施を延期しておりました「PUALIF 分散型防災拠点 フィールド実証プログラム」（金沢市協力／尾山神社にて実施）について、2026 年 9 月 17 日（木）に振替開催することを決定いたしました。

あわせて、同じく実施延期となっていた、兼六温泉での住民を中心とした防災実証イベントを 9 月 30 日（水）に振替開催することを決定いたしました。さらに、本取り組みを広げていくための協賛企業向け説明会を 10 月 16 日（金）に開催するほか、災害時浄水ユニット「PUALIF（ピュアリフ）」の詳細を紹介する公式ランディングページ（LP）を公開したことをお知らせいたします。

PUALIF 公式ランディングページ：<https://pualif.organo.co.jp/>



■PUALIF 分散型防災拠点 フィールド実証プログラムについて

能登半島地震をはじめ、近年発生した大規模災害においては、災害による直接的な被害はもちろん、電気、水道、ガスといったライフラインの停止が被災地域の住民にとって大きな負担となっています。中でも水道は復旧に 60 日以上^{※1}と、ライフラインの中でも特に復旧までの時間を要するインフラであり、支援物資として届く貴重な飲料水を、手洗いや食器洗い、身体を洗うといった「生活用途」に使うことへのためらいや衛生面の不安が、避難生活の質を著しく低下させる一因となっています。

本実証プログラムでは、地域の身近な水源である「井戸」を活用し、災害時の給水手段を多重化することで、指定避難所や支援物資を補完する自律的な給水拠点の構築を目指します。モデルケースとして、平成 9 年（1997 年）に民間施設を対象とした「災害時協力井戸」の登録制度を開始するなど、全国に先駆けて井戸のネットワーク化を進めてきた金沢市にて検証を行います。当日は、新開発した災害時浄水ユニット「PUALIF（ピュアリフ）」を用いて、井戸水を生活用途に使える「飲めないが、キレイな水（＝衛生用水^{※2}）」へと浄化するデモンストレーションのほか、地元住民や町会関係者、金沢市の村山卓市長らが参加する、住民体験型の給水訓練も実施いたします。

※1 阪神淡路大震災（1995 年）、東日本大震災（2011 年）、平成 28 年熊本地震（2016 年）、能登半島地震（2024 年）における、上水道 95%前後復旧までに要した日数（内閣府資料ほかに基づく）の実績を元に中央値を算出。

※2 本リリースにおける衛生用水とは、手洗いや身体を洗う際の使用を想定した水のこと。飲用水質を満たしていることを災害発生時に分析・確認することは難しいため、飲用はできません。

■PUALIF 分散型防災拠点 フィールド実証プログラム 実施概要およびスケジュール

●実施概要（振替開催決定）

プログラム名：PUALIF 分散型防災拠点フィールド実証プログラム～次世代給水拠点インフラのモデルケース構築～

日時：2026 年 9 月 17 日（木）15:00 – 16:30（受付開始 14:30）^{※3}

場所：尾山神社（金沢市尾山町 11-1）

金沢中央観光案内所（金沢市南町 4-1 金沢ニューグランドビル 1F）^{※4}

主催：オルガノ株式会社、株式会社 quantum

協力：金沢市

主な内容：

- ・井戸水を用いた移動式小型浄水ユニットのデモンストレーション
- ・地域住民、地域防災会、ご臨席者参加による給水拠点設営、給水体験
- ・災害時利用に関する質疑応答、意見交換会

※3 雨天決行。荒天時は一部プログラムを変更して室内実施を想定しております。

※4 受付場所は金沢中央観光案内所（金沢市南町 4-1 金沢ニューグランドビル 1F）になります。

上記は現時点での予定となります。当日の状況、予定により内容に変更が生じる可能性もございます。あらかじめご了承ください。また 9 月 30 日（水）に、同市内の兼六温泉（金沢市暁町 18-36）でも災害時浄水ユニットのデモンストレーションや、住民参加型の給水体験を中心とした実証実施を予定しております。本件についての詳細は別途 PUALIF の LP（<https://pualif.organo.co.jp/>）にてご案内するほか、ご取材などご希望については info_pualif@quantum.ne.jp までお問い合わせください。

■PUALIF（ピュアリフ）※5 について



「PUALIF」は、水処理の総合エンジニアリング企業であるオルガノのコア技術をベースに開発した新しい移動式小型浄水ユニットです。糸巻フィルターと中空糸・活性炭フィルターにより、濁質や不純物、細菌類を低減します。PUALIF は日本国内に数多く存在する水源「井戸」に着目し、井戸水を手洗いや食器洗い、身体を洗うなど、避難生活の質を左右する生活用途に特化した「飲めないが、キレイな水（＝衛生用水）」へと浄化、提供します。

※5 PUALIF はオルガノ株式会社の登録商標です。

●開発の背景と目的

・水道復旧長期化への課題意識

近年の大規模災害において、ライフラインの復旧の中で最も時間を要するのが水道です。住民が給水車に長蛇の列を作る光景は、阪神・淡路大震災から約 30 年を経ても変わらぬ課題として残っています。

・衛生用水の不足が招く避難生活の質低下

飲料水は支援物資として届くものの、手洗いや食器洗い、身体を洗うといった「生活用途（衛生用水）」としての使用はためらわれがちであり、これが避難生活における衛生面の不安や質の低下を招く一因となっています。

・災害時浄水ユニット PUALIF（ピュアリフ）による避難生活のストレス軽減への挑戦

こうした課題を踏まえ、水処理の専門家であるオルガノの技術を元に、災害時に井戸水を衛生用水へと浄化する新しい災害時浄水ユニットのプロトタイプを共同開発しました。フィルター1 セットあたり累計約 5,000 リットル※6（フィルター交換を経て繰り返し利用可）の衛生用水を提供することが可能で、これにより避難生活における水の心配を軽減することを目指し、本格的な配備にむけた実証を行っています。

※6 標準的な井戸水水質（濁度 5 度程度）を想定した場合。本体に交換用予備フィルター 3 セットを同梱。

●オルガノ株式会社について (<https://www.organo.co.jp>)



1946 年創業の総合水処理エンジニアリング企業です。半導体製造で求められる超純水の製造装置から、街のレストランやコンビニの浄水器、生活・工場排水をきれいにする装置まで、多岐にわたる水処理技術を展開。先端技術を駆使して水や環境に関わる課題に取り組み、未来をつくる産業と社会基盤の発展に貢献しています。

●株式会社 quantum について (<https://www.quantum.ne.jp>)

quantum

quantum は、クリエイティビティを軸にしたインキュベーション力で、新規事業開発、ベンチャークリエーション、ハンズオン投資によるグロース支援を行うスタートアップスタジオです。

2016 年の創業以来、100 社を超える企業、大学などとインキュベーションを実践しています。これからも venture builders として、①新規事業のインキュベーション、②ベンチャークリエーションとグロース支援、③デザイン&エンジニアリングの 3 つの事業セグメントを重ね合わせて「世界を変えるインパクトのある新規事業の創造」に挑戦していきます。

<本プレスリリースに関する問合せ先>

PUALIF 実証プログラム事務局：木村俊介（quantum） 根村真希、吉村光英由（オルガノ）
info_pualif@quantum.ne.jp

<quantum に関する問合せ先>

quantum 広報:木村俊介・尾形亜季 電話:03-6441-7203 FAX:03-6441-7204 e-mail:info@quantum.ne.jp